



教育目標：自立 敬愛 精励
ようがの学び舎 舎訓 責任 信頼 誇り



用賀中だより

～生徒が主人公である学校、地域と共に歩む学校～

学校だより 3月号 令和7年3月吉日

ようがの学び舎 世田谷区立用賀中学校

校長 毛利 慎治

(PDFでも読みやすくなるよう、レイアウトを試行しています)

『未来を見据え、行動する一步を踏み出してみませんか』

ようがの学び舎 世田谷区立用賀中学校
校長 毛利 慎治

最近、知人から「ぜひ読んだほうがいいよ」と勧められ、『ライフ・シフト』という本を読みました。この本では、これからの時代、人はより長く生き、働き方や生き方そのものを根本から見直す必要があると述べられています。特に印象的だったのは、「2007年以降に生まれた日本人の2人に1人は107歳まで生きる」という予測です。

「本当にそんなに長く生きるの？」と思うかもしれませんが、これは医療の進歩や生活環境の改善を考慮した科学的な予測です。これまでの日本では「60歳で定年し、残りの人生を悠々自適に過ごす」という人生設計が一般的でした。しかし、もし100歳まで生きるとしたら、60歳はまだ折り返し地点です。今後は、これまでの常識にとらわれず、生き方や働き方を柔軟に考える必要があります。

話は変わりますが、先日、私は福島県のスキー場を訪れました。驚いたのは、多くのお客さんがいるにもかかわらず、最低限のリフトしか稼働していなかったことです。理由を尋ねると、「リフトを動かす人がいない」「除雪に人手を取られている」とのことでした。少子高齢化による人手不足が、すでに身近なところにも影響を及ぼしているのです。

一方、海外に目を向けると、アフリカや東南アジアでは若い世代が増え続けています。日本とは逆に、労働力の確保が問題になっている地域もあります。こうした状況の中で、今後は海外の人々が日本で働く機会が増えていくでしょう。そうすると、私たちは彼らとどのようにコミュニケーションを取るのか、言葉や文化の違いをどう乗り越えるのが重要になります。

さらに、未来について考えると、もう一つ気になる話があります。2050年には、日本の多くの地方自治体が消滅すると予測されています。少子高齢化が進み、地方の人口が減り続けることで、今ある町や村を維持できなくなるからです。しかし、世田谷区は今後も人口が増加し、100万人都市になると予想されています。用賀のGMOビル周辺にも、さまざまな国籍の人々が生活するようになるでしょう。

日本語だけではなく、多言語でのコミュニケーションが当たり前になるかもしれません。また、2045年にはAI（人工知能）が人間の知能を超えと言われています。すでにAIは医療診断、金融取引、芸術創作など、さまざまな分野で活用されています。今後、AIができる仕事が増え、人間の仕事が減る可能性があります。たとえば、自動運転が進めば、タクシーやバスの運転手はどうなるのでしょうか。AIが文章を作り、デザインをし、法律相談までできるようになったら、人間の役割はどう変わるのでしょうか。

こうした未来の変化を見据えたとき、最も重要なのは「学び続ける力」です。

『ライフ・シフト』では、人生100年時代を生きるために、「学び続けること」「変化を恐れずに挑戦すること」「自分の人生をデザインすること」が大切だと述べられています。これまでは「いい学校に入り、いい会社に就職すれば安心」という考え方が主流でした。しかし、これからの時代は「どんな仕事に就くか」ではなく、「どんな力を身につけ、どう活かすか」がより重要になります。「この知識をどう活かせるか？」と考えることが大切です。興味を持ち、新しいことを学び続ける姿勢こそが、未来を切り拓く力になります。

私自身も、新しい学びの大切さを実感しています。最近、英語に関心をもっているので校内研修の際に本校の英語科の授業を生徒役として受けましたが、改めて「学ぶ環境が身近にあることの素晴らしさ」を実感しました。同じ内容を外部のセミナーで学ぼうとすると、費用がかかることもあります。学校には学べる環境が整っています。「学べるうちに学ぶこと」は大多数の大人が悔やんでいる一つでもありますね。

生徒の皆さん、後悔は先にはできません。学校には、さまざまな学びの機会があります。この環境を最大限に活用し、「学び続ける姿勢」を身につけてほしいと思います。

2007年以降に生まれた人の2人に1人が100歳まで生きる時代。そんな未来を生きる皆さんにとって、「学び」こそが人生をコントロールする力になります。人生は長くなりますが、それだけ「どう生きるか？」が問われる時代でもあります。だからこそ、目の前のことだけでなく、少し先の未来についても考えてみてください。「自分はどんな人生を送りたいのか？」「そのために、今できることは何か？」これらの問いを持ち続けることが、これからの時代を生きる力になります。

これがまさしく「キャリア・未来デザイン教育」とであると確信しています。

これからも、用賀中学校の「キャリア・未来デザイン教育」を通して未来を考える機会を作ります。一緒に、未来に向けた一步を踏み出しましょう。

全校朝礼で、学校関係者評価の結果を生徒皆さんに伝えました

2月18日(火)に全校朝礼を行いました。開始時刻の8:25に集合も、ほとんどの生徒がきちんと行えるようになり、行事や状況に応じた見通しや行動の力が高まっていることを感じました。



この日までに学校関係者評価委員会の皆様（区内の高校や大学で活躍されている学識者や学び舎PTA元会長様、おやじの会の元会長様など、本校に縁(ゆかり)のある6名の方で構成されています）によってアンケート結果の分析や考察をまとめていただき、5日(水)の職員会議に先立って、

学校関係者評価委員委員長 駒沢大学高等学校校長 貫井 洋 様よりご講評をいただきました。



私達教職員にとりまして、このように第三者（外部の方）からの評価をいただくことは成果にせよ課題点にせよ公正な振り返りにつながります。よい点はよいと、さらに伸ばせる点は今後も期待したいとご講評をいただき、心が温まりもし、引き締めりもする機会となりました。

この結果は、一番先に生徒に伝えるのが筋道だと考え、18日の全校朝礼での発表となりました。

アンケート内容は割合多くあり、校長先生から要点を絞って伝えたのですが、一度で全て理解するのは難しかったかもしれません。ですが生徒の皆さんが読んで十分に理解できるように、言葉を選んで分析・考察がなされていますので、ご家庭や地域の皆様もご確認いただきながら、生徒へも自分でも読んでみるよう勧めていただければありがたいです。

以下に全校朝礼後の生徒の振り返りを紹介いたします。ご覧ください。

- 来年度からもう受験生だから、今後のおおまかな計画を立てていこうかなと思った
- 生徒主体の学校にしていきたい思いが伝わりました。
- 自己肯定感を上げる努力をしようと思った。
- 手帳などを使って自己肯定感を高めたいと思った。
- 先生の話聞いて、生徒が中心となる学校を作り上げていきたいと思いました。
- 自分以外の方がどのように考えているのかがわかってよかった。また、改めて自分について考え直す機会にしていこうと思った。
- これからの構想が分かった、分かりやすかった。
新学期でも今回の学びを生かしていきたい。
- 自己肯定感を上げるにはどうすればいいのかなと感じた
- 将来のことを考えて行動する。学校で楽しく過ごす。
- 三年生に代わり、学校を引っ張っていきたくと思った。
- 勉強などは、常に計画を立て、見通しを持って行動することを心がけたい。
- 先生に意見を出したりして、もっとお互いに協力しあいたいと思った。
- 将来のわたしがなりたい職業にはどのような勉強が必要なのか調べて、それを重点的にやろうと思った
- 今学校でやっていることは将来に向けてのことだと改めて感じた
- みんなが過ごしやすい学校を作れるように、評議会などで積極的に意見を出す。
- 後一年もあるけど、見方を変えれば後一年しかなくて、それをいかに有意義な時間にできるかがこれからの私たちにできることだと感じられました。 . . .

ただ「全校朝礼の話（だった）」という一過性のものではなく、さらに自らの意識を高めていこうと、よい形で共鳴している生徒がこんなに多くいるところが、大変素晴らしいなと感じました。

これからの用賀中学校生の目標

ようがの学び舎 世田谷区立用賀中学校

✓

目標を持ち、努力し続ける

✓

自己肯定感を高める

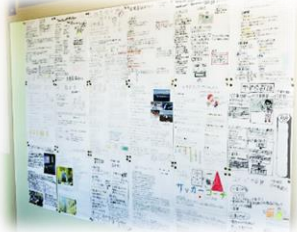
✓

他者と関わる力を高める

1年生、キャリア学習として学びを深めました。

1年生は3学期開始から、キャリア学習として「職業調べ」に取り組んできました。冬休みなどを活用して、自ら関心のある職業を挙げ、調べるものを絞り、さまざまな方法（インターネット、書籍、インタビュー等）を活用して、調べてきました。

作成前は「真っ白な画用紙」だったものに、たくさんの職業について、それに就くための方法や適性、大変な点や良い点などが詳しく書かれ、廊下に掲示されています。



さらに2月8日(土)には「職業講話」が開かれました。用賀中や職員と縁(ゆかり)のある方に依頼を受けていただき、次の職業経験のある方々がご承諾くださいました。今回はその中で次の8名の方に、講話をしていただきました。

- 厚生労働省職員
- 医師
- ピアノ教室講師
- ダンス講師
- キャビン・アテンダント
- 経営コンサルタント
- 人事コンサルタント等
- 国際IT系の職業



今回ご講話いただけなかった方や、「実は私も〇〇について話せます。」という方は今後のため右の二次元コードに情報を入れていただけましたら幸いです。



生徒の振り返りを紹介いたします。

●先日の職業講話、ありがとうございました。お話を聞いて、「自由と自己責任」の大切さをよく学びました。色んな種類があってびっくりしました！！私はこのお話を聞いてより興味がわいたし、大人になったらこの職業をしてみたいと思いました。色んな人と出会い、話せるお仕事につきたいと思いました。ありがとうございました。

●この間はピアノの講話をしてくださりありがとうございました。本当に最後の『星に願いを』は教室で泣いてしまうほどとても感動しました。あんなに心が浄化されたのは初めてです。ピアノの先生って怖いイメージがありますが、先生は優しくそうで安心しました。本当にありがとうございました！！

1年生、ダンスをチームで創り、発表しました。

体育で1月から練習に取り組んできたダンスを2月17日(月)に発表しました。グループごとに名前をつけ、自由振り付けの部分は協働で創っていきました。

振り返りを紹介いたします。

私達は今、保体の授業でダンスを教えてもらっています。ダンスが得意な人や苦手な人もいます。今頑張っていることは、ダンス講師の方が教えてくれる所や考えた「フリー」を踊るということです。各班で分かれ考えるのですが、考えた振りを踊って見たら、意外に難しく思ったように進まないようなことが多々あります。発表まで時間が残っていない中、どうすればいいか難しいです。ひたすら練習するしかないので頑張って練習しています。

ここまでの過程にはさまざまな苦労や工夫があったようですが、みんな一生懸命にダンス発表をしており、だからこそ見る側も応援の気持ちをもって、大変盛り上がり見ていました。

最後には「全員で踊ろう！」ということで、上がりたい生徒が講師の木村舞央(きむらまお)先生とともに舞台に上がり、踊りました。

またこの時間は1年生の先生方も参観し、最後には初見ですが、一緒に踊りました。



ダンスの様子(無音)です。↓



2年生、演劇を通して「権利」について学びを深めました。

2年生は2/4(火)と17(月)に講師として世田谷パブリックシアターの方3名が来てくださり、演技の手法や、目には見えない「権利」をどう表すかなどについて、教えたり考えさせたりしてくださいました。「知らないと、『ない』ことにされてしまうけれど、知ることで『ある権利』を自他ともに守りあうことができる」と伝えてくださいました。

生徒の振り返りを紹介いたします。

○演劇をするなんて最初は思いつきもしませんでした。が、いざやってみると相手の考えやこれまでの行動を振り返ることができて、演劇をすることで考え方が、相手のことも考えて行動するという事に変わりました、いい経験になって本当によかったです。



第33回“明日のTOKYO” 作文コンクール佳作作品です。

受賞生徒 2年 代表生徒

私の住む街には、緑がたくさんある。春には桜が咲き、夏には美しい新緑と活気のある蝉の音が響く。秋には鮮やかな紅葉が人々の心を癒し、冬でさえ多くの緑が残っている。しかし、少し都心の方へ

行くだけで視界のほとんどを高層ビルが占め緑の数が少なくなってしまう。都市開発が進んでいく中、「緑」の存在が今後の生活を大きく左右するのではないだろうか。

以前、社会の授業で地球温暖化と、二酸化炭素の増加について学んだ。体感では、二酸化炭素が増えているなんてわからず、初耳で、とても驚いた。しかし、その時に植物の光合成について思い出した。植物は、太陽光を浴びることで二酸化炭素を吸収し、酸素を放出する。植物を活用すれば、効率的に二酸化炭素を減らせるのではないかと思った。だが、よく考えてみれば、都市化により年々植物の数が減少している。いくら植物があっても、切り倒して建物を建設すれば、当たり前だが二酸化炭素の放出量と植物が吸収する二酸化炭素の量の比が合わない。だから、二酸化炭素が増加してしまうのだと痛感した。

では、どうすれば良いのだろう。そう考えていた時、ふと家庭菜園のことが頭に浮かんだ。私の父も母も家庭菜園が好きで、毎年いくつかの植物を植えている。ひょっとしたら、たった一つの植物でも多くの二酸化炭素を吸収しているのではないか。その疑問について調べてみると、芝生一ヘクタールあたり年間五から十八トンもの二酸化炭素を吸収し、この量は森林とほぼ同じで、ガソリン二・二から七・八キロリットルの二酸化炭素排出量に値するそうだ。仮に十平方メートル芝生を植えた場合、年間五から十八キログラムの二酸化炭素を吸収できる。あんなに小さくて細く、人間に踏まれ続けている芝生がこんなに多くの二酸化炭素を吸収していて、とても驚いた。

そんな芝生を有効活用することで、二酸化炭素の増加がおさまっていくのではないかと思う。例えば、マンションの屋上で芝生を育て、誰でも使えるリラクゼーションスペースにしたり、個人で、プランターに少し芝生を植えたりするだけでも効果はあるはずだ。このようなちょっとした取り組みが未来の東京、そして世界をより良くしていくと思う。

また、愛媛大学農学部の研究で、緑色の植物など安らぎ感の得られやすい植物で「視覚疲労緩和」の傾向が見られることがわかったそうだ。デスクワークやビデオゲームをたくさんする現代の私たちは、目の疲労が溜まりやすくなっている。そんな時に植物を見ることで、目の疲労が取れるというのだ。この研究結果を見て、私は植物の無限大の可能性を感じた。二酸化炭素を吸収したり、目の疲れを癒したりと多くの素晴らしい力を秘めた植物をもっと活用していくべきなのではないだろうか。少なくとも私は、そんな社会になることを願いたい。



3年生、用中アカデミー開催！

2月17日(月)に3年生で「用中アカデミー」を実施しました。用中アカデミーとはクラス対抗のクイズ大会です。クイズ大会と言っても…遊びではありません！5教科の出題範囲は都立の入試範囲、実技教科は学年末考査範囲とし、国、社、数、理、音、家、英に雑学という教科をプラスし、7教科を各クラスでチーム分けし、対戦しました。

受験勉強で疲れている中、久しぶりにクラス対抗で盛り上がりを見せ、とても楽しそうにしていました。仲間が考えている時には応援したり、正解した時には全力で拍手をしたりと素敵な姿を見ることができました。



学納金の徴収方法が4月から新しくなります。

用賀中学校では、令和6年度からゆうちょ口座を各ご家庭に開設していただき、そちらを「学納金口座」としておりましたが、令和7年度から区全体として学納金徴収方法の刷新を進めていく方向です。

「学校モール」という仕組みを令和7年度に区内数校で先行実施し、令和8年度以降に世田谷区立小中学校すべてで導入となる見通しです。

詳しくは3月の保護者会で、2年生の保護者様へお伝えいたします。事前に右の二次元コードより、手続き方法などを見ておいていただくと助かります。よろしくお願いいたします。



←学校モールパンフレット
手続き方法案内動画(無音)→



< 3月の予定 >

1日(土)区百人一首大会 3日(月)実力テスト(1,2年)
4日(火)全校朝礼 7日(金)校外学習(3年)、野鳥観察会(1年)
8日(土)土曜授業日 10日(月)祝卒業講演会(3年)
11日(火)観劇会(全) 12日(水)保護者会(全)
13日(木)クラスマッチ(3年) 19日(水)卒業式
21日(金)クラスマッチ(2年) 24日(月)クラスマッチ(1年)
※クラスマッチは参観できます。
25日(火)修了式・離任式
26日(水)春季休業日始



ご感想・ご意見↑

<入試関連>

3日(月)都立一次発表
6日(木)都立二次学力検査出願
11日(火)都立二次学力検査日
14日(金)都立二次発表
24日(月)都立定時制二次出願
27日(木)都立定時制二次検査日
28日(金)都立定時制二次発表

用賀中HP

